

群 教 セ	G01 - 03
	令7.290集
	国語 - 中

# 自らの学習を調整しながら課題解決に迫る生徒の育成 ——振り返りシートの工夫と課題解決に迫る問題提起を通して——

特別研修員 加藤 義忠

## I 研究の概要

### 1 主題設定の理由

令和7年度群馬県学校教育の指針では、「教師が『～させる』授業から、児童生徒が『～する』授業へ」と授業改善の視点が示されている。特に児童生徒の学び方の改善においては「追究すべき課題を自分たちで設定し、解決への見通しをもつ」ことや「自らの学びを自覚できる振り返りをする」ことが重点として挙げられている。また、国語科に現れてほしい子供の姿を「追究の過程において、言葉への気付きを手掛かりに、課題解決に向けた考えを繰り返し問い直している」としている。指導の重点としては「児童生徒が言葉に立ち返り再考したくなる『しかけ』を用い『かかわり』を行う」とある。

研究協力校(以下、協力校)の生徒は学び方を選択して学習することを好む様子が見られる。特に、自分の立場を決めてその根拠について考えたり、自ら選んだ題材でレポートを作成したりすることに進んで取り組む様子がうかがえる。また、他者の考えを聞いたり読んだりすることで、自身の考えを広げようとする姿勢も見られる。しかし、教師から与えられた学習内容に取り組むことだけで満足してしまい、単元の学習課題をより深く追究しようとする姿勢につながらないことが課題として挙げられる。単元の学習課題への追究の意欲が持続しないことが、対話交流の目的を見失ってしまうことや相手によって活動が滞ってしまうことに顕著に現れている。

そこで、単位時間ごとの学習を十分に振り返ることを通して、生徒が自分自身に必要な学びを捉えられるようにしたり、単元の学習課題を追究するための視点に気付き、深い学びを追究したりしてほしいと考え、本研究テーマを設定した(図1)。

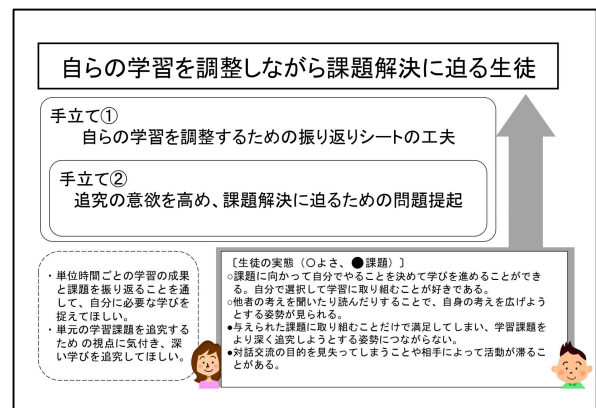


図1 研究のイメージ

### 2 具体的な手立て

#### 手立て1 自らの学習を調整するための振り返りシートの工夫

振り返りシートには、生徒が自分で学習計画を立てて学びを進めるための機能と、自身の学習を振り返って次時に必要な学びを捉えるための機能がある。生徒は単元全体の学習をイメージするために、大まかな学習内容が示されたガイドラインを参考にして指定時数の計画を各自で立てる。また、学習の質を保証するためのチェックリストを活用して自身の学びの達成度を確認しながら学習を進める。さらに、前時の振り返りを基に生徒が立てる「マイめあて」と、本時を振り返り、次時に取り組むべき学習内容を捉えるための「学びの成果」「次時に必要な学び」の項目を設けることで、AARサイクルを継続し、自らの学習を調整しながら学ぶことができるようにする。

#### 手立て2 追究の意欲を高め、課題解決に迫るための問題提起

単元の学習課題について生徒の追究が進んだタイミングで、新たな視点を与える問題提起を設定する。生徒が単元の学習課題を追究するための視点に気付くことが、単元の学習課題を追究する意欲を高めることにつながる。また、問題提起によって生徒の追究の意欲が高まった段階で交流の場を設定することで、生徒が目的を見失うことなく意見の交流を行うことができ、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながる。

## II 実践例

- 1 単元名 「プチ評論家になり文章を比較して読み、考えを伝え合おう」(第2学年・2学期)  
 教材名 「君は『最後の晚餐』を知っているか」／「『最後の晚餐』の新しさ」光村図書

### 2 授業の実際

#### (1) 第1時

第1時では、初めに二つの文章を読み、「どちらの文章が『最後の晚餐』のすごさを伝えることができるのか」について初発の感想を書いた。その結果、約半数ずつに分かれたため、自分がよいと感じた文章のすごさを他者と交流することを目的にして学びを進めていくこととした。

また、単元の学習課題を達成するために「ガイドライン」を基に学習計画を立てた。計画は学習進度によって変更可能であり、それぞれの生徒が自分に合った学習計画を立てる姿が見受けられた。

#### (2) 第2時～第4時

第2時から第4時では、単位時間ごとに生徒が自身の振り返りを基に「マイめあて」を立てて学習を進めた。前時に振り返りシートに記入した「学びの成果」と「次時に必要な学び」を基に「マイめあて」を立てたことで、第1時に立てた学習計画よりも具体的な内容が記述された(図2)。

時間	学習内容 ガイドライン	学習計画	マイめあて 前回の振り返りをもとにめあてを立てよう	学びの成果 ～した結果〇〇が理解できた。 ～しようとして粘り強く取り組めた。	次時に必要な学び ・〇〇についての理解や知識が不足している。 ・〇〇について他者の意見を聞いてみる必要がある。 次回は文章を読んですごさを伝えている部分を見つけていきたい。
1	課題をつかみ学習計画を立てる	計画を立てる	全体の見直しを持つ	学習計画を立てることができた。	次回は、今回の続きに取り組む。文章を分析をしていきたい。
2	文章を選択して、その根拠を明らかにする。	文章を読んで特徴を捉える 内容を比較したり分析したりする	内容を読んで「最後の晚餐」のすごさを伝えていると思った言葉や説明の仕方を探す 内容を読んで筆者が「最後の晚餐」についてどのように考えているのか理解する。	最後の晚餐」のすごさを伝えていると思った言葉や説明の仕方を探すことができた。もう一方の文章と比較してみようと思ったが、まだ少し内容不足なところもあるからもう少し文章を読んで分析したいと思った。	次回は、今回の続きに取り組む。文章を分析をしていきたい。
3				筆者は「最後の晚餐」について「かっこいい」や「新しい」と考えていることが分かった。その理由や根拠も文章の中から探すことができたのでよかった。共通点や相違点については取り組んでいないところもあるから次回も分析を続けたいと思った。	次回は、共通点や相違点についてまとめてみたい。読み取りが不足しているところがあるので友だちと確認をしたい。
4		2つの文章の効果について考える	共通点と相違点をまとめてみたい。きちんと読み取れているのか友だちと確認したい。これまでまとめてきた本文中の表現の効果を考えることにも挑戦してみる。	友だちと確認しながら分析したこと確認をすることができた。共通点や相違点をまとめたり、友だちと一緒に本文中の表現の効果を考えることにも挑戦してみることができた。	次回は、自分の意見を話したり相手の意見を聞いてより深く文章について考えられるようにしたい。特に異なる立場の意見をよく聞きたい。

図2 第2時～第4時の「マイめあて」

第2時では、「最後の晚餐」のすごさを伝えていると思った言葉や説明の仕方を探するために、自分が選択した文章を繰り返し読み、内容を理解しようとする姿が多く見られた。また、「次時に必要な学び」には、「文章を分析していきたい」や「もう一方の文章と内容を比較したい」という記述があり、文章を繰り返し読む中で分析や比較を進めていこうとする姿がうかがえた。

第3時では、二つの文章の内容や特徴を読み取って表などにまとめていこうとする生徒が多く見受けられた。また、「次時に必要な学び」には、読み取ったものを比較して共通点と相違点をまとめていきたいといった内容が多く記述された。

例えば、マイめあてに「筆者が『最後の晚餐』についてどのように考えているのか理解する」という記述があり、それぞれの文章の特徴を観点ごとに表にまとめようとする姿がワークシートから見取ることができた(図3)。「次時に必要な学び」には、「二つの文章の共通点や相違点についてまとめていきたい」と記述があり、本時に表にまとめることができなかった点についても、更に比較していこうとする姿が見られた。

第4時では、それぞれの文章の共通点や相違点をまとめていく生徒が多く見られた。ベン図などの思考ツールを使用して、他者と協働しながら共通点と相違点をまとめる様子が見られた(図4)。

第4時の「次時に必要な学び」に、「次回は自分の

観点	君は「最後の晚餐」を知っているか	「最後の晚餐」の新しさ
文章の構成の仕方	序論・本論・結論	序論・本論・結論
比較	比較をしていない	他の作品と比較をしている
作品の作り方について	技法を用いて詳しく描き方に着目している	技法は用いらず、簡潔に描き方について着目している
作品に対する筆者の考え	五百年も昔にかかれた名画は、二十一世紀の今も生きている。「かっこいい」と思った。	新しさと人々を驚かせ、魅了した。

図3 二つの文章の特徴をまとめた表

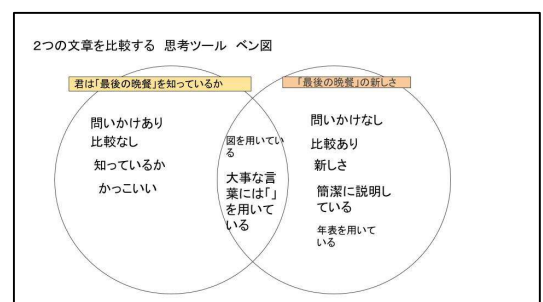


図4 共通点と相違点をまとめたベン図

意見を話したり相手の意見を聞いたりしてより深く文章について考えられるようにしたい。特に異なる立場の意見をよく聞きたい」と記述があり、これまでの学びを次時に計画されている他者との交流に生かそうとする様子がうかがえた。また、ベン図にまとめる中で「問い掛けの有無で感じ方は変わるだろうか」「問い掛けがある方が親しみをもてる」など表現の効果について話し合う様子もうかがえた。

### (3) 第5時

手立て2は、「相手を選んで交流」「全体交流」「問題提起」「グループ交流」という流れで進めた(図5)。

まず、相手を選んで、それぞれの文章の特徴を交流した。同じ立場や異なる立場の相手と意見を交流することで自身の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。

次に、第1時で選択した立場と意見交流した後の立場をデジタル共有ソフトで提示し、交流後の意見の変容を可視化し全体で共有した。その結果、交流によって、どちらの文章にも「最後の晩餐」のすごさを伝える工夫があるといった考えの変容が見られた。「それぞれの文章に工夫があってどちらも作品のすごさを伝えているから選べない」「どちらもよいと思う。読み手によってよさが変わるかもしれない」というそれぞれの筆者の表現の工夫に着目した発言があったため、筆者は誰に向けて文章を書いたのか問い掛けて「筆者の表現の目的や意図は何だろうか」という新たな視点から問題提起をすることで追究の意欲を高めようとした。

最後に、筆者の表現の目的や意図について、グループで意見交流した。「誰に向けて書かれた文章なのか」や「筆者の意見や事実」に着目した交流が行われ、それぞれの筆者の表現の目的や意図について自身の考えを記述した。

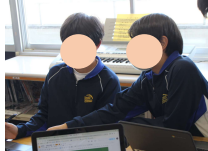

相手を選んで交流	同じ立場同士で、筆者の主張を捉える。
	違う立場同士で、文章から受ける印象の違いを捉える。
問題提起 筆者の表現の目的や意図は何だろうか。	
問題提起についてグループ交流	
	問題提起について、グループでそれぞれの文章の目的や筆者の意図を考える。
グループでの交流後に書かれた意見	
<p>筆者の表現の目的や意図はなんだろうか？</p> <p>「君は『最後の晩餐』を知っているか」は、自己主張強めの文章だと感じた。筆者の体験や思ったことを絵画の科学を根拠にして説明している。問いかけの文が多いため、子供でも読みやすいと思った。筆者が「最後の晩餐」のことが好きな気持ちがわかった。</p> <p>『最後の晩餐』の新しさは、構図が画期的だということを新しさとして伝えようとしていた。他の絵画と比較してわかったことを中心に書いていると思った。少し難しい言葉で短い文章にまとめられているので、大人向けの文章だと思った。</p>	

図5 第5時の流れ

### (4) 第6時

第5時に記述した自分の考えを基に、それぞれの筆者の表現の目的や意図について、第5時とは、違う相手と再び意見交流を行った。以下、意見交流の様子である(図6)。


<p>S1: 筆者の主張や意見が多い文章だったね。</p> <p>S2: そうだね。初めて絵画を見る人におもしろさが伝わりやすい文章になっていそうだね。</p> <p>S1: もう一方の文章は筆者の主張や意見が少ないね。</p> <p>S2: ほんとだね。客観的な事実を中心に書いてありそうだね。</p> <p>S1: 美術館等の解説文のような書き方だね。</p>	
--	---

図6 意見交流の様子

次に、自分の考えをワークシートに整理した。交流の中で、第5時に挙げられた「自己主張が強い」や「他の絵画と比較して分かったこと」等の記述を主観的な表現や客観的な表現に分けて、それぞれどのような場面にふさわしい文章なのかを整理する様子が見受けられた(図7)。

### 「君は『最後の晩餐』を知っているか」の目的

問い掛けによって読者に没入感を与え、絵の世界に引きずり込むことができると思った。また、「」を使って筆者の考えを他者に伝えることで、読者に自分は「最後の晩餐」を見てどう感じるのか考えさせる工夫がされていた。この文章は初めて絵画を楽しむ人に興味をもってもらうことやおもしろさを知ってもらうことが目的だと思った。

### 「『最後の晩餐』の新しさ」の目的

他の絵画と比較して分かった事実を簡潔にまとめている。この文章は長くない解説を聞きたい人や事実と根拠だけ知りたい人に向けて書かれたものであり、幅広い世代や美術館に訪れた人たちなど多くの人を対象にしていると思った。

図7 第6時に意見交流を経て整理された生徒の意見

単元全体の振り返りでは、筆者が文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考え、同じ題材について述べた二つの文章の違いについて自分の言葉でまとめることができた(図8)。

【単元の振り返り】～一部抜粋～

- ・今後文章を読むときは、客観的か主観的かを捉えて評論か解説か考えてみようと思った。
- ・「最後の晩餐の新しさ」は事実を明確に説明していて、客観的な文でした。今後、解説を読むことがあればその解説している内容の客観性について考えながら読みたいです。また、評論を読むことがあれば筆者の考えに共感できるか考えたり没入感を感じながら読んだりしてみたいです。
- ・解説を書くとき:誰もが共感できるように、主観的ではなく客観的な文章をかけるようにする、比較や事実をもとに書く、図や表を用いるなどしてみようと思った。しっかりした根拠を出したいとき(調査などの結果)に使ってみようと思った。
- ・評論を書くとき:自分の考えをもとに書く、なぜそう思うのか考察したことを中心に書く。自分の意見をはっきり主張するなどをしてみようと思う。意見を伝えたいときに使ってみようと思った。

図8 単元全体の振り返りの記述

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 振り返りシートの工夫によって生徒が単元全体の見通しをもち、自分自身に必要な学びを捉えながら学習を進めることができた。「チェックリスト」や「次時に必要な学び」を基に「マイめあて」を設定することは、単元の課題解決のために、本時に自分自身で取り組むべき内容を決めて学習を進めることにつながった。
- 単元の課題解決に向けて追究が進んだタイミングで問題提起をしたことによって、新たな視点を提示することができ、生徒が活発に意見交流する姿が見られた。追究の意欲が高まり、課題解決に迫ることができた。

### 2 課題

- 振り返りの記述内容として、学びの成果を具体的な言葉で表出できない生徒が見られた。振り返りの時間を十分に確保したり、視点を明確に示したりする必要がある。